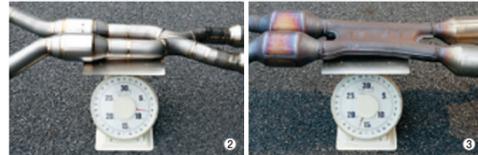




驚異的な軽さの子タンフルエキ



重厚に輝くALLチタニウムFULLエキゾーストシステム・トムスバレルだが、持ち上げるとその軽さに驚かされる。これまでのエキゾーストシステムではノーマルのフロント&センターとマフラーの組み合わせで34.1kgだったが、フルチタンは14.7kgと驚異的に軽い。チタンのセンター(写真①)を計量すると8.3kg(写真②)、ノーマルは16.4kg(写真③)だから約1/2だ。

機械式デフを導入



デフケーシング内に仕込まれているトムスのハイパーL.S.D.スポーツ。不快な作動音を抑えつつ、サーキット走行やワインディングにおいて高いトラクション性能を実現する機械式の1ウェイタイプとなる。デフにありがちな不快な引きずりもよく抑えられていた。

トムスによって仕上げられたレクサスRC Fのコンプリートカーは、来月報告予定の最終タイムアタックにおいてどれほどのラップタイムを記録するのだろうか。RC Fレポートはついに最終局面を迎えることになる。



繊細な溶接跡が美しいフロント&センターパイプに仕込まれるスポーツ触媒。パワーアップと優れた音質を誇るトムス製のエキゾースト・システムだが、車検対応も抜き差しなし。ボルトオンで装着できる。



チタニウムでできているマフラー・カッターはTOM'Sのロゴと美しい焼き色が目立つ。左右4本出しのカッターは独立したパーツになっていて、車体からの突き出し量を任意に調整できるようになっている。

になる。ひとつ目はフルチタン化されたエキゾーストシステムであり、ふたつ目は駆動系の仕上げともいえるリミテッドスリップデフ(L.S.D.)の組み込みである。レポート車の排気系はこれまで、ノーマルの中間パイプとトムス製のストレートスルー・タイプのステンレス・マフラー・ボディを組み合わせたものを試しており、テールエンドのマフラー・カッターのみがチタン製となっていた。今回組み込まれるシステムは、スポ

ーツ触媒付きのフロント&センターパイプとテールエンド部分の双方がチタン化されている。マフラーのタイコ部分の形状は以前のステンレス製と同じなので、その部分の排気効率は今ままでと変わらないことになるが、フロント&センターパイプが変更されることさらにパワーアップが望めるはず。さらにステンレスからチタンに材質が変更されたことによる軽量化も見逃せないポイントだ。一方L.S.D.は、レクサスRC F

の場合はノーマルでも穏やかな動きのトルクセンターパイプが仕込まれているのだが、サーキットにおけるラップタイム追求のためにはやはり機械式を組み込む必要があると判断された。今回RC Fのためにトムスが開発したトムスのハイパーL.S.D. Sportsは機械式とはいえず、エレクトリックタイプなので、スロットルオンでは確実にステアリングを確保しつつ、街中でステアリングを据え切りするようなシチュエーションではガツガツと音鳴りしたりしないスマートな仕様になっている。

出来立てホヤホヤで持ち込まれた「オールチタニウム・フルエキゾーストシステム・トムスバレル」は、見た目はかなり重そうなのだが、実際に持ってみると拍子抜けするほど軽い。今回試しにノーマルとトムス製それぞれの重量を計ってみたのだが、ノーマルのエキゾーストに比べるとフルチタンのシステムは全体で19.4kgもの軽量化を実現していた。軽

量化はハンドリングや加減速などクルマの動き全てに効果があがるが、快適装備を省くことなく、これだけの重量を一気に削れることは珍しいと言える。またパイプを滑らかにカーブさせるため細かく切り分けたチタンの素管が美しい溶接で仕上げられている様子もまた、レーシングカーそのもの。これだけ美しいパーツを車体裏に組み込んでしまうことが惜しいと思えるほどだ。



付けが容易であるだけでなく、リセールの時にも有利になるのはありがたい。次号では最終のタイムアタックをFSWで行う予定になっているが、今回は公道での走りをチェックしてみた。フルチタンのシステムが奏でる音質は、アイドリングの時点でもこれまでのステンレス製の時に比べて若干高く、乾いた雰囲気であることがわかる。パワーアップに関しては公道試乗というところであってそれほどエンジン回したわけではないが、確実にパワーアップしている実感できた。

ストリートでの試乗において、低速コーナーからの立ち上がりでL.S.D.の効きを確認に体感できた。フルチタンのエキゾースト・システムが奏でる排気音もこれまでより若干乾いた甲高いものになり、レーシーな雰囲気も高める。すべて車検対応なのが魅力。



Lexus RC F Tuned by TOM'S

Vol.5

L.S.D.とフルエキで武装完成!

数々のチューニングメニューを順調にこなしいよいよファイナル仕様が来てきたトムスRC F。今回はその白眉とも言えるメニューとして、オールチタン製のフルエキゾーストシステムと、サーキットで武器になるL.S.D.の装着を行った。

REPORT ● 吉田拓生 (Takuo Yoshida)
PHOTO ● 服部真哉 (Shinya Hattori)

「今月のTOM'S装着パーツ」	
ALLチタニウムFULLエキゾーストシステム・トムスバレル	100万円
Hyper L.S.D. Sports	18万円
※価格はすべて税別	

去る8月、富士スピードウェイにおいて、ノーマル状態のレクサスRC Fによって2分1秒半ほどのラップタイムを記録したというラップタイムを記録したというラップタイムによるチューニング・レポート。回を経るごとにフルエアロ装着や足まわりを中心としたチューニングは進み、その都度タイムアタックを敢行した際も着実にタイムアップを果たしてきた。そして先月号でレポートしたタイムアタックではついに1分58秒台半ばを記録するまでになっている。過給エンジンをコンピューターチューンで馬力アップするのは違い、パワーユニット以外の部分を精査しタイムを削り取っていくチューニング・スタイルは一流のレーシングチームならではの繊細な仕事といえる。こうして積み重ねた3秒というタイム短縮が持つ意味はとても大きい。そして今回はついにトムスRC Fの最終スベックを完成させる2つのエクイップメントが組み込まれること